

1月15日、ネパール連

邦民主共和国のラム・パ
ラン・ヤダブ大統領を表
敬しました。私はその席
で、三つのことを述べま
した。

一つは、昨年8月に発
生したネパール・スンサ
リ部の大洪水緊急医療支
援に派遣されたAMDA
医療チームの活動現場に
慰問に来ていただいたこ
とに対する感謝。二つ目
は、ブドワール市にある
AMDAネパール子ども
病院が、成功裏に10周年
を迎えることができたこ
と、その象徴として2万
人目の出産を報告しまし
た。最後は、AMDAネ
パール子ども病院事業だ
けでなく、ダマック市に

あるAMDA病院事業な
どの実績に基づいた「A
MDA国際医科大学in
ネパール」構想を紹介し
たのです。

大統領からは「それは
私にとっても喜びであ
る。今後ネパールの人
たちを助けて欲しい」と
のお言葉をいただきました。
ちなみに大統領は、
AMDAが92年にダマッ
ク市でブータン難民救援
医療プロジェクトを実施
した時の保健大臣です。
AMDAのことを熟知さ
れていました。

引き続き、カトマンズ
にあるアンナプルナホテ
ルでAMDAネパール支
部の執行部と会議をしま
した。全員一致でAMDA
国際医科大学構想の実
現が決定されました。こ
の医科大学は、ネパール
支部のみならずAMDA

「AMDA国際医科大学inネパール」構想

としての象徴になりま
す。場所をカトマンズ、
ブドワール、ダマックの
いずれにするのか。予算
をどうするのか。教職員
を、あるいは医学生の募
集をどうするのか。解決
すべき課題が数多くあり
ます。世界初のNGO医
科大学を目指し、3カ月
ぐらいかけてAMDAネ
パール支部が計画を策定
する予定です。

なにより、国際医科
大学をネパールに創設す
るのが、とAMDAネパ
ール支部から尋ねられ、
次のように答えました。

「来年、20周年を迎える
AMDAネパール支部
は、ネパール国内におい
てAMDAネパール子ど
も病院、AMDAダマッ
ク病院、国連難民高等弁
務官事務所(UNHCR)
と契約したブータン難民

キャンプの保健・医療管
理、USAIDと連携し
たエイズプロジェクトな
どを成功させてきた強い
団結力がある。次に、本
部から依頼した世界の紛
争地や災害地への医師派
遣に、必ず応えてくれた
ことに対する絶対的な信
頼がある。最後に、AM
DAネパール支部会員は
ネパールの医療界におい
て要職を占めており、多
大な社会的影響力があ
る」と。

ネパールは世界の最貧
国で、医療状況も非常に
遅れています。対する日
本は平均寿命世界一で
あります。日本の大学の医学部
や看護学部との連携を考
えています。一方的に最
先端の見識や技術力を提
供するだけではなく、若
い医師、医学生や看護学
生が現地医療の原点を

再発見することにか
思います。IT技術を応
用した遠隔医療による支
援体制も新しい視点で
す。さらに、AMDA各
国の支部を含めた国際社
会からの支援も考えてい
ます。それはAMDA相
互扶助ネットワークの一
層の拡充を意味します。
米国発の金融恐慌が世
界恐慌へ発展することは
時間の問題です。「AM
DA国際医科大学」構想
実現には多くの困難が待
ち構えています。しかし、
今年にはAMDA創設25周
年です。過去25年間のA
MDAの実績とその蓄積
があります。実現にはA
MDAの総力を挙げて取
り組むつもりです。皆様
方のご理解とご支援をよ
ろしくお願い申し上げます。

生が現地医療の原点を
(AMDAグループ代表)